

果亭美術文庫 かていびじゅつぶんこ

町指定有形文化財

指定 / 1993年（平成5年）2月2日

点数 / 約770点

所有 / 山ノ内町

山ノ内町ゆかりの南画家、児玉果亭が残した書画作品をはじめ、筆や墨、硯、絵皿、印章といった実際に制作に使用された道具類を保管しています。また、粉本や蔵書類、その他、生前愛用したとされる楽器や机、人形なども納められています。

果亭の承認を受け、果亭没後の翌年（大正3年）、支援者であった高橋作衛の手により「果亭美術文庫」としてまとめられました。当時は収蔵庫（土蔵）、陳列館、石碑、標柱が建てられ、ここに収蔵された品々を用い東京にて作品展の開催と画集が刊行されました。

こだま かてい
児玉 果亭 1841年（天保12年）- 1913年（大正2年）



信濃国松代藩領沓野村（現・山ノ内町平穏）に生まれる。佐久間雲窓より花鳥画の画技を習う傍ら、興隆寺（山ノ内町佐野）住職、畔上榊仙から漢学・経学・禅を学ぶ。1876（明治9）年に

は、京都にて南画の大家、田能村直入に入門。その後、帰郷し渋温泉星川に画室竹仙山房を建て後進の育成に励む。中央画壇や官営の展覧会において著しく活躍するも、地元での暮らしを大切にし、地域住民や訪れる文化人らと交流、音楽や俳句にも精通した。



《大日本信濃州高井郡平穏郷温泉場遠望之真景》

1878年（明治11年） / 紙本水墨



《群仙観瀑図》 絹本青緑



果亭愛用の絵皿と筆



手作りとされる小倉百人一首

山ノ内町教育委員会事務局